

総合科学教育研究センター

ニュースレター

[挨拶] 保健科学部より

令和三年度より、新たに保健科学部が設置されます。これに伴い、総合科学教育研究センターに新たに7名の教員が配属されました。この7名は、それぞれ平成31年4月から令和2年4月までの間に着任し、この間、新学部に関わる様々な業務に専念して参りました。いよいよ開学部を迎え、ここに一言、ご挨拶を兼ねて、教育と研究に関する意気込みを申し上げます。

安田尚子教授は、英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ、言語と社会等を担当します。グローバル社会において言語学、外国語力は必須のスキルですので、研究テーマでもある漫画を用いた社会貢献型PBLで楽しく有意義な授業を目指します。

本多創史教授は生命倫理学、倫理学、歴史と社会等を担当します。医療人になった際に役に立つトピックスを取り上げ、学生の思考力に磨きをかけたいと考えています。

佐々木道子教授は、化学Ⅰ、化学Ⅱ、自然科学実験等を担当します。科学的なものの見方を身に着けることで世界が変わって見える、という体験をしてもらえるような講義をおこないたいと考えています。

有吉健太郎准教授は、生物学Ⅰ、生物学Ⅱ、自然科学実験等を担当します。生物の持つ精妙な仕組みをわかりやすく伝える講義を展開したいと考えています。

反町篤行准教授は、物理学Ⅰ、物理学Ⅱ、自然科学実験等を担当します。教育と研究の双方に万遍なく力を入れて取り組むつもりです。

柴田恭子准教授は、統計学、医療統計学、医療統計学演習等を担当します。統計学・数学の勉強が嫌いにならないよう講義に工夫をこらしたいと考えています。

久保田恵佑講師は、英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ等を担当します。学生が自ら学ぶ意義を見出し、主体的・自律的な学習者になることができる授業作りのために、日々精進したいと考えています。

この7名は、新しい学部の教育とそのための研究に全力投球してゆく所存です。不慣れなことも多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、どうぞご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

(人文社会科学系領域・本多 創史)■

【コラム】 教養としての周期表：カルシウム (Ca)

今回は、カルシウムについて紹介します。

カルシウムは、周期表ではアルカリ土類金属に分類される元素です。

この元素は、私たちの生活に密着しています。

最初に挙げるのは、住についてです。例えば、私たちの住む場所を作るコンクリートやモルタル（接着剤）の主成分として重要な役割を担っています。接着剤としてのカルシウムは、古代エジプトや古代ローマでも盛んに利用されており、建築材料としてなくてはならないものです。

同様のことは食においても言えます。その代表は豆腐です。これもまたカルシウムやマグネシウム化合物を凝固剤

として利用することで作ることができ、おいしく食することができます。

最後に、生体内の利用です。食事から吸収したカルシウムと骨に蓄積されているカルシウムのバランスにより、体内のカルシウム濃度は一定に保たれています。また、カルシウムは、筋収縮、記憶、睡眠、細胞分裂や代謝酵素の一部など、様々な場において活用されています。

このように、カルシウムは、私たちが生きるために、必要不可欠な元素なのです。

（自然科学領域・谷口 暢一）■

発行機関 〒960-1295 福島市光が丘1 公立大学法人 福島県立医科大学 総合科学教育研究センター

編集者代表：医学部自然科学講座 谷口暢一 看護学部総合科学部門 中山仁

連絡先：E-mail:icsh@fmu.ac.jp

センターHP：<http://www.fmu.ac.jp/home/icsh/?x=cat:1>